直言
第二十八號
SOCIALISM＝ソーシアリズム＝社會主義＝社會主義は土地、資本、其他あらゆる生産機關の公有を主張する者なり

●日本人排斥と社會主義

八月發行の渡米雜誌は『米國の日本人排斥と同國の社會主義者』と題する斯波貞吉氏の一文を載せたり、吾人は其の大體を紹介するの必要あるを信ず、氏曰く

『昨年和蘭のアムステルダムに開かれたる萬國社會黨大會に於て、米國の委員が東洋移民排斥の決議案を提出したることは、當時の「社會主義」に記されたる所なり、四海同胞主義を基礎とせる社會主義者が此の如き決議案を提出するの不都合なるは言ふまでもなきことにして、予は「社會主義」の英文欄に此事を論じて社會主義者の注意を促したるに、……本年二月の米國桑港のクロニクル新聞は日本人攻撃の筆を執り、斷然日本人を排斥すべくんば米國は終に日本人の迫害に至るべしと論じ、盛んなる日本人攻撃を開始したるより、同地の勞働者は勿論、勞働者の歡心を得んとする者等は之に雷同して、州議會に日本人排斥の決議を爲すに至れり、此日本人排斥の不穩當なることは多くの米人が熟知する所にして、彼等が排斥の理由と稱するは悉く虚構の事實に基づきたるものなり、予は之を以て當に我日本人の爲に默視すべからざるのみならず、實に是れ人類の爲に由々敷問題なりとし、去る五月の本誌英文欄に於て此排斥の理由なきことを論じ、次で米國の社會主義者に向つて彼等が萬國社會黨大會に決議案を提出したることの不當を詰り、左の三問を試みたり

一、社會主義は單に白人のみに適用せらるべきものなりや
一、日本人は萬國的社會運動に加はる能はざるものなりや
一、社會主義は單に或る人種に限りたる利益を增進せしむべきものなりや

此論文は、幸に米國社會主義者の注意を喚起し、萬國社會黨大會に米國の委員として出席したる紐育ウオーカー（米國社會黨の機關新聞）の主筆アルガーノンリー氏は直に書を送りて、氏等の提出したる決議案は予の言へるが如き主旨に非すと辯解したり、其要旨は左の如し

シユルーテル、ヒルクウツトの兩氏及び予等の提出せる議案は「野蠻人」に就きて何事をも記載せず、又亞細亞人を「野蠻人」として之を排斥したるに非ず予等は支那人阿非利加人及び其他の契約移民に就きて大會の注意を促したるまでなり、右契約移民は移民其物に害あるのみならず、米國の勞働者に害あるものにして社會主義は宜しく之に反對すべきものなりとなしたるなり、其詳細は大會の報告に詳かなり云々

此辯解の正當なるや否やは去五月廿八日の紐育デイリイ、ピープル（米國社會勞働黨の機關新聞）誌上に載せたる主筆デリオン氏（シカゴ大學の經濟學敎授たりし人にして同國の社會黨員中最も學識ある人なりと稱せらる）が、予に宛てたる公開狀に依りて之を知るを得べし、其公開狀は大要左の如く述べたり

「足下が反對の意味に於て述べられたる此三個の疑問に對しては予は飽くまで足下に同意し、足下と共に憤懣を禁ずる能はざるものなり、然れどもアムステルダムの會議に提出せられたる不正なる決議案に對し、足下が米國の委員を詰責せらるゝは誤りなり、此誤謬は吾社會勞働黨に取りて大なる苦痛なりとす、之れ蓋し足下の偶然に出たる過誤なるべし、社會勞働黨の委員として、又一個人として、毫も批難せらるべき汚點なきものなり、汚點は「社會黨」「社會民主黨」「公有黨」等と稱する人々に在りて存するなり、此事は會議の記事に詳かなり」

「吾社會勞働黨の衣服は此の如き非社會主義的行爲のために當に消極的に汚れざるのみならず、當時積極的に汚されざらんことに務めたるなり、此事はアムステルダムの會議に出席したる吾黨代表者の報告に詳かなり、此報告に曰く

「和蘭の委員ファン、コールの署名せる「劣等人種」の移住を制限せんとする提議ありしが移住調査委員、熱心なる運動に依り、終に六人の署名を以て決議案として提出せられたり、此六人は孰れも社會黨若しくは社會民主黨の人々即ちシユルーテル、ヒルクウイツト、リー等なりき、此決議案には明かに「劣等人部」なる語を使用し、其說明として括弧の中に「例へば支那人、黒人等なり」と記せり、此「等」の文字には日本人をも含むことと彼等の意志に於て明白なりき

「斯くて提出者は予等の同意を求むるに勉めたるも此の如き非社會主義的の決議案に同意すべきに非ざるを以て之を拒絕し、此決議案は遂に同意を得る能はざるより終に議題に上るに至らずして撤回せられたり。」

「右は報告の一部に過ぎず、予は更に足下の爲に所謂社會黨、社會民主黨、公有黨の何物なるかを示るべし……彼等は當地（紐育）に在る獨逸のフォルクスツワイツング（國民雜誌）會社の社員なり、即ちヒルクウイツトは其株主にして、シユルーテル及びリーは其雇人なり、彼等は自己の利益の爲に決議案を提出し終に撤回せしめられたり」

以上は斯波氏の論文に記せる事實の大體なり、吾人は米國に社會黨の二派がアムステルダム大會の一國一黨の決議にも從ふこと能はずして、淺ましき反目を爲し居るを見て、深く之を惜とする者なり、然れども其の反目の結果として、彼等の多數が猶は人種的偏見を脫する能はざるを知り得たるは、偶然の幸ひと謂ふべし日本の社會主義者は將來大に此の人種的偏見に對して戰ふ所なかる可らず

△角筈の鬼婆

角筈の鬼婆何者ぞ、ゾラの才なくトルストイの筆なくして、一度其怪腕を揮へば椿姫花の如き文明の首都は、忽焉として陰鬱なる雨、鬼氣啾々たり、陰火團々たり。

△文明の直譯

角筈の記事一度出で天下慄然として寒心す、「文明」の名目に誤解して[illegible]たる人類の前に、神は此の如き惡魔を降して文明と開化とを直譯せしめたる也。

△博士と鬼婆

博士、大博士、大々博士、冷然として社會救濟の法を講ず、曰く人口論、曰く姙娠制限論、曰く罪犯者處分論、知らず殘忍、角筈の鬼婆と何れぞ。

△首相と鬼婆

[illegible]、敢えて嬰兒四十餘人を惨殺し、首相[illegible]に溺れて、新橋の[illegible]を籠す、食慾、性慾、もと之共に等しく人間の野性也、社會何ぞ食慾に嚴にして性慾に寛なる。

（以上四篇秀湖生）

THE CHOKUGEN.
(The Plain Speaker.)
SOLE ORGAN OF JAPANESE SOCIALISTS.
Issued every Sunday.
Communications addressed to the Heiminsha, Tokyo.
Vol. II. Tokyo, August 13th, 1905 No. 28

THE TWO STRIKES.

There were two strikes at the end of last month. One was occurred in the Osaka Alkali Company. That company is established with the capital of 1,000,000 yen, and employs 120 laborers. The laborers complained of the the press of their wages and demanded them to be raised. The company promised to make a raise of five sen for those whose wages are under fifty sen. The laborers could not satisfy with such a little [illegible]. The company then promised to raise the wages of all the laborers. The laborers could not satisfy yet. They made a little strike for the master-engineer and began to go on strike. The company then suddenly took a strong measure and unemployed all the laborers at once, locking up the factory.

Another small strike was planned by the sailors and firemen of the Choshi Steamship Company. The thirty three sailors and firemen of the company went on strike demanding also the raise of wages. But the company succeeded to continue the navigation temporarily employing the men from another firm company, and threatened the strikers to discharge all of them.

These two strikes have plainly resulted in the defeat of proletariats! But they are thus gradually learning how to struggle against the capitalists.

THE FAITHFUL SERVANTS CELEBRATING CEREMONY.

On the 25th ult., there was a very peculiar ceremony performed in a Buddha temple of Ibaraki county in its proper name it was called the "*Faithful Servants Ceremony*." The regents of the county were all present and eight of the faithful servants who are employed in the households of the great landlords of the county, were honorably celebrated for their faithfulness with the reward of money, amounting to so much as three yen for the first rank, two yen for the second rank and one yen for the third rank. In the ceremony it was added to the name we find the words as follows: "His deed is the model of all men, always thoughtful of his own social position, as if it were only one day during so many years." Ah! This is the model of slaves which the bourgeois wants.

A LECTURING TOUR.

Comrades Kinoshita and Yamaguchi are now making a lecturing tour in the northeastern tract of this country. They had departed Tokyo on the 1st of this month, and will come back within a few days. Notwithstanding this hot weather and the cruel obstruction of the police, they are making most effective lectures everywhere beset the assembly large and small.

COMRADE KOTOKU.

Comrade Kotoku is not recovered yet. He is now staying at a [illegible] Dr. Kato in Odawara seashore. He is intending to make a trip to America for a few months in order to recover health completely.

直言は日本社會主義の中央機關紙也!!!

（平民社電話　本局三三六二番）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

日本之新聞

○東京市電車問題　東京市には電車を營業とする三個の會社あり、東京市街鐵道會社、東京電車鐵道會社、東京電氣鐵道會社是れなり、而して此の三會社は各々線路延長の競爭を爲し、市民の便利幸福には頓着なく只管自己の利益の多からんことをのみ勉め居れり、此に於て内務大臣は三會社に對して線路の整理統一を協定すべきを諭し、三會社の重役は二回の會合を重ねて之を議したるが、遂に協定の見込なしとて其旨内務大臣に返答し、内務大臣は左らば此方にも心得ありとて特許命令書を讀み聞かせて相別れたり、而して特許命令書には

『内務大臣は公益上必要と認むる時は何時にても原動力、其方式設備、線路若くは布設順序の變更、又は交通上必要なる線路新設、又複線の布設若くは撤去、又は一部の線路の廢止を命ずることあるべし』

と規定せられ居れり、此の問題の今後は果して如何に成行くべきか、そは吾人の知り得る所に非ざれども、弊害の根本は三社の競爭に在り、三社は差當り眼前の小利害に引かされて協定も不調となりたれど、早晩合同して一大會社となるべきは自然の勢ひなり、然れども假し合同して一大會社と爲りたりとも、斯くの如き獨占的の公益事業を私設の營利會社に委托するの根本弊害を拔かざる限りは、東京市民は決して眞に電車鐵道の便利を得ること能はざるべし、吾人は今の東京市會及び市參事會が到底斯くの如き公正の言議に耳を傾くべしとは想はざれども、此際東京市民が『電車市營』の必要を悟り、分立競爭より合同となり、合同より公有となるの順序が、經濟界に於ける社會發展の大勢なるを知らんことを希望す。

○貧民窟を郊外に移すの計劃　内務大臣が電車會社に示したる電車線路整理の方針中、貧民窟を郊外に移すの計劃につき左の言あり

△該問題は公共衞生保護上に關係を有すること頗る大なり、假令ば昨今流行せるペスト、赤痢、其他各種傳染病の如きも、當初は必ず芝の新網、下谷の萬年町等を始め其他各區に散在せる貧民窟、或は其附近下層住民より發生せるものなり、又は火災の如きも同一なり、故に市の發達及び市内交通機關の設備に伴ひ貧民窟は勿論、下層市民をば郊外に移住せしむること最も必要なり……線路を整理し以て郊外との連絡を期せしむるの必要あり、然る時は彼等下層人民も喜んで現在の不健康地を去り、郊外に移轉し朝夕市内の各工場、各職業場に例の特別割引賃銭にて電車を利用し往復することあり、彼等下層市民の生活狀態、特に衞生狀態も大に改善せらるゝと同時に、市の面目をも改むるに至るなり

又その結果として、貧民長家建築の計劃に就て左の言あり

△三社の線路が郊外迄夫々延長の上は、市役所或は各區役所が率先し、其の管下下層市民の爲めに乾燥の土地を選定し、貧民納屋を建て、空氣の流通を圖り、其構造を完全にし、三疊、二疊、臺所附にて日掛三錢より六錢以内にて貸與するの方法を講ずるもよし、又は各區有力者に於て該事業を經營するも、不當の家賃を徴收するにあらざれば之を許可す

吾人は斯くの如き都市經營が一日も早く實行せられんことを希望するものなり

○貰ひ子殺しの職業　吾人は佛國社會の腐敗を描きたるゾラの小說の中に於て幾百幾千の巴里の小兒が、其の不幸なる母の懐より恐ろしき惡婆の手に渡されて何時とはなしに失せゆくの慘狀を見たりしが、今や日本東京に於て眼前に其の活きたる事實を見るに至れり

△府下淀橋町角筈に住む根本とう(三十六)といふ女は、養育料を取りて多くの乳呑子を引受け、僅かに葛湯など呑ませおきて、自然衰弱して死に至らしめ或は手を下して之を絞殺し、其の死骸は床下に穴を掘りて埋め置けるを發覺したり

△斯くて彼が殺したる小兒は四十人の多きに及び、其の連累は十餘人の多きに及べり

△小兒の多くは貧しき婦人の私生兒にして、其の養育料は八圓のもあり、十圓のもあり、十三圓のもあり、十八圓のもあり

△大阪府南河内郡浦芝にも亦た之と同樣の事を爲せる新谷藤兵衞(六十)といふ者あり、彼も亦た此の二三年來、養育料を取つては貰ひ子を干し殺したること五人に及べり

人に結婚の自由を與へざるが故に私生兒あり、私生兒ありて之を養育すること能はざるが故に殆んど之を棄つるが如くに人に托す、之を托せらるゝものも亦た衣食の急の爲にするが故に之を餓やし之を殺す、我が子を棄てしむるものも此の社會の壓迫なり、人の子を殺さしむるものも亦た此の社會の壓迫なり、この社會の存續する間は法律如何に之を罰するも、此の現象は決して拭ひ去らざるなり

○國家社會主義の講習　桑田熊藏氏は國家社會改良主義を説き、樋口勘次郎氏は國家社會主義を説く、二人共に相應の學者なり、二人共に社會主義の何者たるかを知れり、而して二人共に社會主義に反對す、但し樋口氏は桑田氏が能とらしく社會主義攻擊の爲に忠勤を挺づるが如き處なく、餘所目にも左まで見苦しき事なし、氏は去ころ呉市夏期講習會に於て社會主義の要領を講じ、最後に左の如き批評を加へたり

『社會主義者が唱ふる自由平等は空想にして實行し得べきものにあらず、却つて社會生存上の正義に反せるものなり、即ち社會主義の提論は根本に於て理想に反し、大いに誤謬を存せり、尤も其經濟上に就ての影響は往々眞理を存せるものあり、随つて長所を認む、此長所を取りて社會を發達せしめんとするは即ち予の國家社會主義なり』

『自由平等を主張するは正義に反す』といふ結論は眞に奇なりと謂ふべし、然れども吾人は此等の批評に係はらず樋口氏が社會主義の思想を普く講述して廣く之を傳へたるの功を稱せざる可らず

○新佛教會堂建設計劃　新佛教の同志は其の機關雜誌『新佛教』の創刊六週年を機會とし、會堂建設の計劃を發表したり、計劃の大要左の如し

一、會堂建設に要する費用は、第一に、我々同志が主として負擔する積りであります。
二、我々は微力でありますから、其の費用の全體を出すだけの力はありません、少くとも半分位は、一般同情者の助力を仰ぎたい考であります。
三、會堂の出來ますのは、早いほど宜いのでありますが、無資力のものが性急いだゞけでは却て失敗致しますから、大凡今後十年位の見込みで、成就させたい考であります。
四、醵成金を出して下さいます御方法は、どんな方法でも差支はありません、一年幾何とか、或は三ヶ月目、半年毎に幾何といふのでもよし、または毎月少額を御出し下さるゝならば、これまた極めて容易で、甚だ便利であらうと思ひます。
五、金額は多少を論じませんが、可成は月々にすれば一年弐拾銭以上に致したいのです。但し半年いくら、一年いくらといふのは、制限は致しません。
六、毎月分納にしても、或はそうでないにしても、成るだけは、年額いくらときめて下さる方が、都合が宜しいです。併し一度或二度だけ、臨時に出して下さることも、勿論妨げはありません。
七、醵助金は、總べて新佛教徒同志會會計、本郷駒込吉祥寺前廿番地中治六へ宛て頂きます。
八、會堂は無論新佛教徒の所有となるのでありますが、併し一般他教徒の其の他の目的のためにも、自由に使用の出來る樣にする積りであります、

社會主義同志も亦た會堂を有するの必要あり、吾人は一日も早く其の機會の來らんことを切望す

○櫻組職工の不穩　府下品川なる櫻組製靴場にては、昨年の戰爭起りし以來、盛んに陸軍省の製靴御用を受負ひ、大に男女の職工を增加し、日々數百名を使役し居たるが、其後軍靴は大倉組にても受負ふ事となり、自然櫻組は御用少となりしにより、臨時に五十人乃至六十人の職工を解雇し、先月三十日には突然二百名程の男女工を解雇したるを以て、解雇されたる職工等は大に憤り、是まで就業中月々積立てたる金圓の拂渡しを求め、之に相當利子を附すべき事をも請求したるに、役員の容るゝ處とならず、相互の意見衝突の結果、被解雇職工二百名は一昨夜芝區高輪車町の料理店萬清樓に集會して、役員に對する談判方法を議決し、夜十時半頃、其一部は品川北の天王境内に、他は御殿山に集合し、夫より櫻組製靴場へ押寄せんとしたりしを、警部巡査が探知して兩所へ出張し、解散を命じたるを以て、職工等は止むなく引取り、目下尚其談判方に付き協議中なりと、此の事實に於て資本家の無責任なる事と、警察官が常に資本家の味方なる事とを知るべし

○大阪熔銅工の慘事　大阪府西成郡難波川町日本黄銅會社冶金部原銅熔解所にて、去五日午後二時半坩堝一個破裂し、居合せたる職工加藤正夫(二十七)は全身眞赤に燒けて熔ける銅を浴びて絶息し、他にも三人の重傷者あり、正夫は直に手當を受けたるも生命は覺束なしと、嗚呼是れ勞働者の運命也

○牛込の自殺未遂　牛込區市ヶ谷本村町二番地松方同居淺野世一(三十二)は、十年來砲兵工廠の職工を勤め謹直にて評判の好き男なりしが、昨年冬より肺尖加答兒に罹り、去月上旬職工淘汰あり、體格檢査にて不合格となり、遂に解雇されたるより、大に行末の事を心配し、一昨夕六時頃六疊の部屋にて剃刀を以て咽喉を三ヶ所突立てたれど死切れずして苦しみ居たるを、人手當を施し養育院へ入れたるが、生命には別條なしと、嗚呼之れ勞働者の運命也

○パナマ移民禁止　パナマ開鑿工事に要する勞働者の供給に關し、我政府は曩さに醫師を同地方に派遣して種々調査せしめつゝありしが、其報告に依れば同地方の水と家屋は、到底日本人に適當せざること判明したれば、我政府は各移民會社をして斷然勞働者の取扱を爲さしめざるに決定せりと

●『社會主義と基督教』に就て

御葉書は正に大阪にて拜見仕候處、多忙の際御返事忘却致候段、恐縮々々、向上主義のヤリクチは餘りに無遠慮にて候、小生には何の紹介もなく全く閑書を掲載したるものに候、小生の言語を誤解したるもあり、小生は責任を負ひ不申候、最も向上主義記者は決して惡意ありたるに非ず、全く誤解と存候、愛兄直言への御紹介の分にも少々意志の徹底せざる感も御座候、之等を一々矢釜敷申立るは小生の好まざる所、又際限もなき事と存候、社會主義に對しては、後日小生の態度を紙上に言明致す時可有之候、夫れ迄は世間の噂取々に一任可致候に付、先づ大概の事にて御獨斷願度候、小生の熱望は、社會主義の人々が基督に在る靈性の人たらんことにて、社會主義其ものも天國のパンダネに充實する三斗の粉たらんことを祈願致候、右御返事迄、早々

八月八日　海老名彈正

石川三四郎殿

●紀念のチラシ

來る十八日、亡妻の一週忌に當り、紀念として『牛生の墓』と題する小冊子を發行いたす事は別項廣告通りでありますが、別に些かながら追善供養の志を以て、新に社會主義傳道のチラシ數萬枚を作り、廣く世間に配布したいと思ひます。若し此の配布を助け玉ふ厚志の方々あらば、郵送料だけ御添にて御申込下さい、何百枚でも無代價にて差上げます。御申込は平民社内小生宛に願ひます

堺利彦

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

世界之新聞

○佛國に於ける婦人勞働問題

「ノイ、ツアイ」新聞紙上に於て、同志ボール、ルイ氏は、佛國工場法案制定の必要を說き、殊に勞働者の爲に急務なりとなし、而も之と同時に、一方に於て強固なる勞働組合を組織して法規の精神を維持するに非ずんば、斯の種の法律は遂に無要の長物化するに至るべしと論せり。

（佛國に於ける婦人勞働者の數は、他邦に於て到底達せざる所に至り、アーデッィ地方に於ては總勞働人の六割を分ち、アルプ地方に於ては五割八分の婦人勞働者あり、而して總計實に百六十六萬九千人の多きを數へ、其内百五十一萬八千人は機織業に從事するものなりと云ふ）

かくて千八百九十二年に、其の勞働時間を十一時間（種々なる例外を設けたる爲め殆んど其効果なかりき）に制限するの法律を發布せる迄は、婦人を保護すべく一事も爲られざりき、其後、千九百年に至り、十時間勞働の制定を爲し、加ふるに種々の除外例を廢止して彼等の地位を進めたりと雖ども、然も猶ほ重要なる點に於て特例を設けし爲め、事實に於て悲しむべきもの尠からず、然るに翻へつて婦人團體の數を見るに、不幸にして甚だ小數なり、即ち勞働組合會員の男子七十五萬人に對して、婦人は僅かに五萬人に過ぎずと云ふ、之に對し、英國「ヂアスチース」記者は曰く、新たに合同したる彼の大社會黨は、此の問題に就きて必ずや大いに活動すべき也と。

○露國革命彙報

集會運動が盛なるに從ひ、政府は政治犯の取締を一層嚴重にするの必要を感じ、此れ迄裁判權を地方の裁判所より中央の軍法會議の管轄に移さんとせしが、又た之に反對の大運動起れり

（今やルノ電報通信社の報ずる所に據れば、帝國元老院は皇帝に建白するに、今後政府が政治犯に對する裁判權を裁判所より陸海軍法會議に移さんとするは帝國の根本法と相容れざる行爲なり、蓋し軍法會議に於ては純粹に法律的の制限ある事なく、且つ千八百二十五年以來同制限の實施せられたる事なしとの趣旨を以てせり、而して帝國に於て之を拒絕せられたりとの事知に渡るに及び、勞働者派の代表者等は會合し、猶ほ政府を攻擊し、此の後、本件に就て二、三日中に不詳なる結果の顯はれんとするを以て、之に對し抗議を提出すべきこと、並に數日以内に一大示威運動の準備を爲すべきことを滿場一致にて決議せり）

吾人は通常裁判權を以て專制なる軍法會議に移すと云ふ如き危險なる計劃の斷じて成功せざらんことを切望す、然るに一方に於ては斯の如き危險なる計策を立つる政府も他方に於ては若々革命熱の緩和策を進行せしめつゝあり、九日の電報に曰く

（人民代表會の準備的[illegible]一般に渡る討議は[illegible]、國會、選擧方法[illegible]なり、[illegible]全く變化し、選擧方法を八月十二日に公表する旨を語せり）

政府黨は遂に敗北せり、然れども敗北は未だ革命黨の勝てるに非ず、多數の自由的傾向と政府黨内に於ける敗北なり、本月十二日に公表せられし選擧法は如何なるものなるか、其の內容より成るか、其の果して革命黨を滿足せしむるに足るや否やは公表の後に非ざれば測り難し

○墺國カトリック寺院の財産

墺太利に於けるカトリック教寺院は、左の財産を有すと云ふ

△土地家屋	二、〇一三、一五八磅
△公債	一五、四九〇、九四九磅
△公有資本	一三、八二三、二四七磅
△其他の財産	二、五六九、〇九八磅
▲合計	四三、八九六、四五一磅

殆んど四千四百萬磅の財産なり、「ジャスチース」記者は曰く、「一貧困なるガリラヤの一漁夫の後門たる彼等に對しては、是れ決して小なる惡財産に非ず」と、而も此の財産は、實際に於て之を作るべく勞働せる下級僧侶に對しては却て苦痛を與へ、僧正其他の高級僧侶のみ獨り榮華を極め居るなり、而して下級の僧侶等は未だ之を自覺せず、寺院及び國家と闘ふて自己の階級を保護するの意思無く、却て其現在の地位を發達せしむるの目的を以て政治運動に努めつゝあり、かくて寺院所有の富は愈々增加し又た增加する也。

○佛蘭西礦業法

獨逸官報の報ずる所に依れば、佛蘭西に於て制定せられし礦業法は、獨逸の其れよりも進步せるのみならず、最も自由なる英國の工場法にも勝れりと云ふ、例へば礦業勞働者は自己の階級より其法律の實施を監視すべき檢査役を選擧し、其檢査役は甚だ有力なるものにして、勿論雇傭者より全然獨立し、唯だ主務大臣のみが、唯だ怠慢せりとの理由を以て、之を解任し得るのみ、而して檢査役等は俸給を國家より受く、若し此の選擧に對して威力を用ゐんとする者あらば、一年以下の禁錮、若くは、一千フランの罰金に所せらる可し、蓋し至當の立法と言はざる可らず、吾人日本の勞働者は未だ礦業法其ものすら之れを有せず、前途の甚だ遼遠なるを覺ふ。

○丁抹に於ける新政黨

現在の自由黨政府が軍事費縮少に敗を取りたるの結果、一の進步せる紳士的民主的黨派は創立せられたる、政府反對の急進黨是れなり、今其綱領を見るに、自然、軍備の省略を第一位に置き、「地方自治權の擴張、元老院及び選擧院議員選擧制度、寺院を廢止し國政をして宗教より全く獨立せしむる事、關稅を減少する事等、累進稅則を設くる事」之に次げり、「ジャスチース」記者は曰く、此の團體が、紳士團に從ふて彼等自身を攻擊するに至るべきか、或は自由黨と社會黨の中間に於て其存立を維持すべきかは、將來に於て興味ある問題なりと。

○十時間制の世界的實行

白耳義のブンデルヴェルド氏は、勞働問題に關する討論の際、最も便利なる證左を以て論じて曰く、十時間制の世界的實行に對して彼の最大の障碍を爲すものは、歐洲中に於て、彼の數墺太利、伊太利及び白耳義の二國あるのみと、アンニール氏も亦た僧侶派議員に反對して曰く、人民將來の運命は一に繫りて勞働者の生命、健康、勇氣、技能の上に在り、勞働時間を十時間に制限するは啻に勞働者其もの丶爲のみに非ざるなりと。

○英國に於ける新立社會黨

頃日英國倫敦より『ゼ、ソーシアリスト、スタンダード』てふ新聞（第一號）の到來に接せり、封紙を切りて見るに、『大英國社會黨』の機關と記しあり、始めて『大英國社會黨』と云ふ政黨の成立せるを知れり、其主義宣言を見るに、最も嚴格に勞働階級の解放を主張し、現存する一切の他の政黨に反對して奮闘すべきことを言明せり、吾人は切に其の健全なる發達を望む。

○獨逸礦業法案

豫て議會に提出せられし同法案は、去る五月十八日、第二讀會を通過し、同月廿六日、第三讀會を通過したり、而して最初委員會の討議を經て以後は多くの添削を施されずと云ふ、尙は次號に於て同法案の重要なる條項を報ず可し。

○南部濠洲勞働黨の勢力

南部濠洲に於ける總選擧の結果は、勞働黨の勢力の大なる增加を來せり、即ち彼等は總數四十二人の議員の中、十五人の直接代表者を有するに至り、而して是れ實に從來の二倍となれる也。

○諾、瑞分離問題

八月十三日、諾威國に於て、瑞典國王と聯合解散に關し國民投票を[illegible]、スカルは正式に[illegible]之と同時に[illegible]を認むることを能はずと[illegible]王位繼承者を見るに至らんかと云ふ

○岑總督の遭難

兩廣總督岑春煊氏は、刺客の爲に左腕を傷けられたりとの近電あり、刺客は改革盟會の一人なりといふ、東洋の原野、亦た革命の火を燎發せんとするか。

◎小田原より　幸德 生

▲同志諸君、予病氣療養の爲め、去六日此地に來り、加藤氏の別莊にころがり居れり

▲嗚呼小田原！明治二十年、予歲十七の冬なりき、保安條例の爲めに東京三里以外に退去を命ぜられ、東海道の松並木を徒步して下りし時、其第一夜を過せしはこの小田原の旅舍なりき、[illegible]に破られ、身體及び手荷物の搜索を受けし時の、如何に腹立たしかりしよ

▲明治三十五年、喀血を吐く頃、此地に流落せる齋藤緑雨の、友なく金なく[illegible]寂しき寓居を訪ねし時、[illegible]殆ど騎患に疲へ果てし彼は[illegible]如何に喜悅に溢れたりしよ、斯くて彼と終日手を携へて海濱に遊び、終に[illegible]

▲去年の此頃は堺夫人の病重かりければ、其幼兒に女中をつけて、久しく此別莊に預けありき、今や此家には故夫人の爲めに一周忌の營みあらんとする時、予は却て[illegible]の爲めに、此家に厄介となるとは人事の[illegible]不可思議なるかな

▲嗚呼小田原！予は小田原其物に就ては多くを知らず、左れど予の記憶に存する限りに於て、小田原てふ名の如何になつかしきよ、而して又如何に[illegible]しきよ、嗚呼往事總て夢の如し、變らぬは[illegible]の齊、松の翠のみ

▲獄を出でゝ直ちに鈴木秀男君[illegible]に接し、越二日、又松岡[illegible]君の訃報に接す、[illegible]、後者は高知[illegible]發起人也、[illegible]

▲予は鈴木君を知らず、[illegible]少にして[illegible]、[illegible]に兵役に徵せられて行くや[illegible]

[illegible]

▲予は未だ松岡君[illegible]、[illegible]誠

▲誰か自然以上に[illegible]なる者ありといふ、誰か[illegible]

▲予は[illegible]

▲書きたきこと多し、[illegible]、八日正午記

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

東北遊說日記(二)

木下生

▲山形市の二日

△二日午前十時過る頃郡山出發、雨中板谷の險道を過ぐ、聞ぶが如き山嶽の間を大小の溪流白沫を吐いて落ちて行く、所々水聲ありて恰も天女の絹を振るが如し、[illegible]羽前に入りて日に着きたるは[illegible]大來なることとなり、椅子を用ゐるに非ずんば其[illegible]を摘むことを能はず、午後五時山形市に着、[illegible]迎へられて同志庄司萬三郎氏の宅に赴く、[illegible]より社會主義を說く[illegible]寄十なん、[illegible]名[illegible]「[illegible]のし[illegible]」を味ひつゝ、訪問の客と夜更まで談論を試みつ、

△三日朝市内を散策す、此市は昔最上氏以來の[illegible]にて同業者らて、町を組織す、銅屋町と云ひ[illegible]業者より成り、鍛冶町と云ふは鍛冶工より成り、桶屋町と云ふは桶屋より成る、新鍛冶町と云へるを過ぎける際父子各々一フイゴーの前に坐わり妻と娘とが[illegible]の槌を振つて相打てる睦まじき一家を見たりし時、僕は覺へず無限の[illegible]に打たれたり、否よ、一たび文明[illegible]此の路に打ち建てられん時、此の愛らしき鍛冶の家庭は離散せざるべからざるに非ずや、

△午後二時より日本基督教會々堂に於て講演會を開く、是れより先き土地の同志者は小學校の屋内運動場を借りて會場に充てんと欲し之を市役所の學務課に交渉せしに其は校長の權限内なれば市役所は之に關係せずと答へたり、依て之を校長に談せしに其は市役所の管轄する所にして學校の自由權内に在らずと答へぬ、不得已同志は書面を以て運動場借用の儀を市役所に願出でしかば市長は則ち市參會を召集して何等の理由なしに願書を却下したりと云ふ、同志者は更に劇場朝日座借用の交渉に及びしに最初は日中ならば差支なしとのことなりしに後に至りて之を拒絕し來りしにぞ、最後に都手を求めて教會堂を借ることゝはなれり、聽衆百三十餘名、警部は十數名の警官を率ゐて内外を警戒せり、山田兄は先づ登壇、資本家主義と戰爭との關係を說き始めて未だ十分ならざるに、英國の南阿征伐の結果を批判せんとするや、警部は立つて中止を命ず、僕次で登壇、現代文明と社會主義との關係に就いて思はず三時間を費やせり、然れ共諸君「三時間」と聞いて吃驚する勿れ、若し平民社樓上の講演會ならんには十分或は十五分にて言ひ盡し得べきものに過ぎず、然れ共今や僕は一[illegible]が爲めに百言を費やさゞるべからざる也、是れ聽衆の[illegible]を求むるが爲めに非ずして實に臨監警官の理解を求めんが爲めの也、斯くて講演會は無事(一面から意外の成功を以て)閉會せり、

△夜七時より更に山形日報社の樓上に茶話會を開く、集まる者三十餘名、互に所感を述べ、疑問を語り、僕は山田君と共に聊か說明する所あり、十一時過ぐる頃樂しき散會を告げぬ、書籍大分賣れたり、警察署にても若干部を買ひ行けり、

△四日朝、夜來の雨ナカ〜に止まんともせず、婦人の來訪に接し、婦人問題に就て語ること暫ばし、出發の時切迫の爲め思ふ所を盡くすことを得ざりしは僕の甚だ遺憾とする所なり、午前十時六分の汽車にて山形市を辭せり、

△庄司氏は眞に面白き有望の靑年なり、其の友人に熱心の主義の人あり、僕は是等の青年に依て將來山形市に我が同志の一團を組織せらるべき時の來るを疑はず

東北遊說日記(三)

山田生

▲楯岡町

△四日午前十一時楯岡町に着、同志伊藤慶助君に導かれて伊勢屋と云へる旅店に趣く、此の町は舊秋田街道の一驛にて人口五六千の小市に過ぎされども僕等が感得したる興味はナカ〜に深遠なるものあるなり、乞ふ稍や詳しく之を報ずることを得せしめよ

△午後本覺寺といへるにて婦人會が開かれた、吾人は多大の感興を以て此會に望んだ、蓋し今回遊說中最も趣味ある會合なるべし、茲に深く司會者伊藤兄の盡力を謝す、

集まるもの三十名計り、妙齡の少女あり既に八十を越へたる老媼あり、四五十のジミな奧さんもあり、警察の監督は例によつて嚴重なり、中には巡查の六ケ敷き顏を見て門前より引き返すものも多かりき、聽衆已に定まりて、時は至れり、されど聞きに來た眞面目なる老幼の顏を窺き見たる吾人は、何と語るべきか、アッケにとられて當惑一方ならず、されど今更斷るといふ譯けにも行かず、已むなく予は先づ立つて、話し始めた、「良き婦人とはどんな物か」といふ事に就て、又木下氏は「婦人は自分一人さえよければ他人はドーでもいゝといふ樣な考を起してはいかん」といふ事を、懇々と說き聞かした。

演壇に立つた吾人は先づ何となく一種云ふべからざる、神聖の氣にうたれた、東京で婦人會といへば、痢髪の式部の會といふ樣に考へられてゐるが、之は實に變つた會で吾人に當てなき經驗と感興とを與へたことを、余は伊藤兄と、會合の御婦人たちに深く謝します。

△夜分は同寺に於て社會主義學術演說會を開いた、集まるもの百餘人、木下氏は「社會主義の大體」に就て嚙んで含める樣に云ふて聞かせ」凡そ二時間に渡つて續りつゝけた。予は「社會主義の實行方法」に就て普通撰擧を主張し、終りに及んで中止された、時正に十時半、當地に於ては同志高田兄、常刈兄など、殊に伊藤兄の一方ならぬ斡旋に感謝す。

▲鶴岡町

△五日朝一番にて大石田といふに至る、茲よりし最上川の濁流を酒田港に下る荷舟に同乘を乞ふて清川といふに至る、途中の[illegible]は最上に濁流を溢れしめて、兩岸に相迫まれる山嶽は淺緣の瀑布を流し白糸の瀧を成して[illegible]、其絕景いふべからず、昔の聞より聽ふ大浪、幾度か吾人をズブ濡れにして、同乘の客には土地方の伯樂とも見るべき老人あり、此地の風物を物語れども吾人には方言多きため更に了解すべからず。

清田にて晝飯を認む、之より鶴岡まで五里半、

△此度の遊說が企てられしは、此地の同志笹原兄の招待が抑もの動機となりたるなれば鶴岡町の遊說は此度の行の主眼也、晚六時鶴岡町旅宿舍に[illegible]、七時より日本クリスト教會に於て、學術演說會を開く、吾人の演說會には、學術と宗教と政治とを問はず常に警察の御苦勞をかけることは一々記すに及ばず、聽衆一百五十人、別室には十有餘名の若き婦人もあり、笹原兄先づ開會の主意を述べ、予は立つて「平民は先づ何をなすべきか」といふ演題の下に米國の對外政策の變化を說き、稍十何分にして中止さる、郡山以來予のサイサキ甚だ良からず、されど戰國す、家康の兵法は三方ケ原の逆戰敗にありき、予が他日の雄辯は實に此間に成るべき也、而も此行や雄辯家木下氏が常に好絕と幾多のサッゼッションを與ふるに、於てをや、木下氏は社會主義に就て約二時間の雄辯を振ふ、十時無事散會す。

當地の傳道[illegible]明日明後日と三日に亘り數回の演說會を開く都合也。

浮世の旅

一[illegible]

右に險しい山がある
左に恐い谷がある
その中んの細道を
あなた危く通るのよ。

人は黃金の[illegible]に
縋つて行けと云ふけれど
すがれば道もおのづから
反れて行くのよ曲るのよ。

峯は高いし、日もわたる
思へば途もなりましよう
[illegible]
[illegible]しくも見えますが。

お聞き！谷間に細流れ
水の[illegible]泣いてゐる
吸つて揶へて世をとめて
いつまでひとを責めるいと。

悲しむ水に月の光り
荒い山路に[illegible]
廣い正しい人道を
面白う行く日はいつか。

あれ〜こ[illegible]谷影へ
山を崩して埋めて、よ
谷は明るく野も廣く
まあ！能い景色になつたこと。

山邊に花も摘まれるし
谷間に水も掬へるし
横に大勢手を取つて
それでも樂に歩けるの。

お聞き！輝く日の影に
水は春の歌つてよ
かくも樂しい花の岸
どこまで行つたら飽きるかと。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

輕井澤論（三）

土屋憲外

▲人口と職業▼

舊輕井澤の戸數は略九十戸、人口凡四百八十人、五百に滿たず、町は中仙道に添ふて碓氷の山路より下方に三町程附立し昔の宿場の名殘は僅に一二路傍の居酒屋に片影を見るのみ、他は悉く今樣風に變りつゝあり、昔名高かりし宿場も今は跡もなき村となれるは其土民の職業と時勢の推移に由るなり。

[illegible]

此他に昔の本陣の跡輕井澤ホテルあり、鶴屋、高松、旅館など云ふも大なる方なり、其他は總じて小さく雜貨店は皆所謂雜貨店にて一種の小仲買人のみ、即ち小諸又は東京又は近在より外人の好み相なる日用品を持ち來り、二割三割時に二倍の高價に賣り付けるなり、此外注目すべきは人力車なれども委細は別稿に論ぜん。

▲教育と政治▼

輕井澤は北佐久郡役所に屬し、輕井澤村役場によりて治める、別に變りたる事もなし、警察は新輕井澤に分署あり、署長と巡査を合して六七名なれど、夏期のみは十名内外に增加し、所の安寧なるものを保護す、常には舊輕井澤には巡査の出張する事なけれど夏期には派出所を設け常に三四名の煙草を吹かすを見る、小學校は新輕井澤の中央、寺を利用したるものにて、校長を合して教員五人、生徒は男女を併せて百名内外、尋常科と授業料を要せず、暑中休暇なく、寒中は十二月より二月の末迄休暇にして、村童の語る所に依れば寒中は餘程暖くなる迄膝を没する程の所を而も靴の少年は山道を通ふなりと、學校には小使なくして生徒悉く是れに作し、且畑まで作らせ其收穫の賣上を先頃も義勇艦隊云々に寄附したる由、嗚呼此無邪氣なる少年の汗も亦資本家の爲に吸ひ取らるゝか、而して狼狽の如き紳士閥は日々黄白を散じて遊びつゝあるに、少年よりは左樣の金を出させ村夫子は勉強せよ勵めよと暑中教ゆる心情察すべきものあり、生徒は昔の舊宿輕井澤の少年のみにて學校は昔の村と新しい面影あり、

クリスト教會堂は夏期のみ開かれ、メソヂスト聖公會と二つあり、然し唯外人の衣服を誇る所と云ふも大過なく、中譯に餘り遊んで居ては具合惡しと云ふので説教をする風情なり、此外に一個の郵便局あり、夏期のみの郵便局と申ても差支なき位にて、冬の何倍と云ふ郵便物を取扱ふ局員中にも外國語を語る者特に來る三等郵便局なり。

▲避暑客▼

輕井澤避暑客は二三の所謂知名の邦人を除くの外は悉く外人にして、其數略八百人と號せども、實際の所六百人位なるべし、然れども此等の外人と共に同伴し來る本邦の青年男女頗る多く、是れを合すれば優に千人は夏期に於て此地に入り來る也、而して此外人の職業と種類は樣々なれど多くは宣教師と學校教員にして目下滞在中なる基督教に關する身分の者三百人と稱せられ、加奈多人と米人多數を占む。

（此等の人間は口に社會の罪を救はんとして[illegible]）

[illegible]

▲土民の生活▼

輕井澤の土民の活動期は暑中三ヶ月なり。向つては一言にして云へば輕井澤の生命は三ヶ月のみにして彼等は此三ヶ月間に於て收穫したる者を以て九ヶ月の長い夢に耽らんとする也、一年は即ち三ケ月のみ、彼等は此期間に於て收穫しだる者を以て九ヶ月間長い夢に耽らんとする也、暑中以外に於ては此地には何等の産業も事業もなく、唯過ぐ來りて饑を送り、食ふと寢るの外何事も無きなり、人あり若し信州を一國と思ふて輕井澤に行李を下さば、殆ど想像の全く喰違ひたるに驚くべし、此地には一歩の水田も無く日射の下に鋤を投じて人生の本當に力ある職業をせる者の片影すら見る事能はず、唯何人も神妙なる眉目を以て破顔一笑洋館を何ふ者のみなるに至りて呆然稍久しき者あらん。

（此後者に如何なる方法にても[illegible]三ヶ月[illegible]）

[illegible]

以上の如き地に於ては何事も何心的の事を說くも無用にて、只三ヶ月の中に生命を保つ社會なれば、少しも眞面目なる處は無く、幸に青年男女の比較的に小數なる村落故淫風烈しからざれど、是れがもし他の村落の如く多數の男女を有したりとせば、殆ど天下の淫村となるとは何人も信ずる所なり。

然し目下の處兎に角三ヶ月にて一ケ年間を支ふるに足るの收入を得る間は到底左樣な眞面目なる考は生ぜず、孤の如き生活をする外道なき也、故に社會主義の思想を此地に布かんと欲せば如何にすべきか是れ同志の教を乞はんと欲する所也。

▲旅職人▼

輕井澤程夏期に於て職人の入り來る處は他に多く非ざるべし、而して其現金主義なるは土民よりも甚しく、彼等は旅鳥なるが故に唯金さへ取れば外に用なく、夏期が過ぐれば他所へ行くべき者、總て無責任を極めて亂暴なる仕方なるは免れがたき所、又金を使ふも亂暴にて少しく多くの收入あればビールを傾け殆ど人足連の常とせざる飲食をなす事往々にして、人力車夫の如きは少數なるに要求の多き爲に客よりも高く位して無禮極め、一日少くも一圓以上の收入はあり、二圓平均と稱せらる、唯此等職人の中越後人のみは眞面目にして日々幾分の必ず貯蓄に近きを常とせる也、而して此等旅鳥の總數は凡四百人と稱せらる。

▲結論▼

以上の如き土地は決して本國に勸かざるべしと信ず、もし此等の地に社會主義を布かんと欲せば新なる研究を要する事は疑ひもなき事なるべし。（完）

●東西南北より

▲軍隊內の近況　[illegible]

▲大隊長の暴状　[illegible]

▲[illegible]（神川村、讀者）

▲[illegible]

▲[illegible]（平民村、愛讀者）

▲[illegible]

▲[illegible]

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●社會主義者は實行者ならざる可らず

紀伊　大石禄亭生

◎社會主義者は皆傳道者でなければならぬ如く、亦た自ら實行者でなければならぬ。我々は數十年若くは百年以後に理想の社會を作らうと思ふものであるが、それは決して今日の社會制度から一足飛びに變化するものでなく、我々が少しづゝ之を實行する事によつて近づき得るものである。

◎尤も此の如く生存競爭の激しき時代に於て、自分だけ圓滿な理想を實行しようと試みたら忽ち餓死すると云ふ塲合もあらう。我々が土地と資本を共有にしようと言ふのは己れの財産すべてを乞食にやつて仕舞ふと言ふでもなく、又桂內閣の政府へ進上しようと云ふ意味ではないので。自己の生活が社會から保障せられぬ限りは、明日の食物も貯へて置かねばならず、子供の養育もせねばならず、從つて一切の營利的事業を打捨てると言ふ譯にも行くまい。

◎併ながら主義の何物たるを了解したものが、自分は裕かな生活をして居ながら依然として高利を貪つたり、勞働者を冷遇するなどは、甚だ不都合と言はねばならぬ。

◎苟も社會主義者として世に立たんとするものは、一方に於て自己の才能に從ひ口により、筆により、或は財により、出來得るだけ之が傳道につとめ、又一方には其實行に於て、少くとも世の宗教家や道德先生以上のやさしき心を同胞に示さねばならぬではないか。

▲人に三分の狂氣と野氣とあるを妨げず、衒氣はこれあること一分なるも其人を俗了す
▲交際とは人を利害打算の活きたる算盤となすもの也　（田岡嶺雲）

●雜誌管見

▲戰爭の原因（獨立評論、明治三十七年戰爭史論）我々は此戰爭の根本的問題は經濟問題にあらねばならぬと信ずるのであります。……今日の樣に大資本家が世界に出來て、これが又「トラスト」と云ふやうな大同盟を結んで資本の力の弱い國の人民を金力で壓倒しやうと云ふ時代には國家の權力に依頼し關稅制度を以て其壓制を防ぎ、經濟上の鎖國主義を行ふと云ふやうな傾向の生じたのも無理は無いことであると信じます……今日の經濟學の主義では國の領土が則ち國民の生活の基本であるから、他國の領土擴張を默つて見て居れば國民の生活はだん〳〵縮まつて行く道理であります……是非戰鬪を賭しても大韓國と大清國の安全を計つて我々の市塲、我々の平和の戰塲を安全にしなければならないと云ふのが今度の戰爭の根本的解釋であらうと思ひます。それで無ければ我々茅屋の平民は意味なしに血を流すのであります△『大資本家が世界に出て來て……大同盟を結んで』など吾徒の常に主張する所に同じ、然るに其の語を繼いで日本の事に及ぶや、全く資本家が存在せざるかの如く論ずるは奇怪に非ずや、世界の列強が軍隊を動かし、領土を擴げんとするは大資本家の起りし結果なるも、日本は獨り例外なりとなすや、『我々の市塲、我々の平和の戰塲』なりと言はる、韓國、淸國が我が領有に歸したりとして、資本家ならざる愛山氏の經濟に如何の影響あるべきや、一般の平民階級が漸く生活難に陷りつゝあるは吾徒の言を俟せずして明なる事實なるべし、されば實に『我々茅屋の平民は意味なしに血を流』しつゝありと謂ふも不可なき也、愛山氏が人道論者しくは虛榮心に原因を歸せずして經濟問題に歸せしは俗間の謬論に卓出せると論なしと雖ども、强て日本の戰爭を辯護せんが爲に論理の徹底を欠くは惜しむべきの極なり。

▲佛教徒と社會事業（無盡燈、鈍山氏）吾人は社會救濟主義と個人解脫主義と孰れが急務なるかを云爲するものにあらず、否、此等は共に佛道布教の二方面にして其間更に輕重の差あるべきにあらずと雖も、比較的動もすれば我佛教徒が徒らに社會に遠ざかり、社會に用なき禁慾的相手にして社會と無關係なる安心の道を勸むることを以て能事畢れりとなすが如きを見て轉た寒心に堪えざる也、……故に……先づ第一に各自信念の樹立に力を用ひ、次で社會の潮流に投じ、之に同化し、之を導いて、以て所謂宗教家の本分を盡すべきなり△宗教は天と人との關係の上にのみ存するに非ず、天と人との關係は、やがて反射して人と人との關係とならざる可らざる也、再言すれば、天道と人道とは互に相聯連し、相反射して宗教の生命となり、社會の光明となる也、されば宗教家が社會的活動に歩を進むる、誠に自然の發作なりと言ふ可し、吾人は由來隱遁主義に陷り易き佛教徒よりして此の言を聞き衷心甚だ喜べり

▲官私大學の卒業生（日本人）日本の人口を以てせば、今日まで輩出せし卒業生は猶ほ甚だ少しとすべく、我が國民の智識をして相當の程度に進ましむるには更に幾倍の多きを加へんことを望まざるべからず……而も業務に從事せる人々の意識及び準備は能く此と相伴はんこと難く、爲に卒業生にして職業を求め得ざる者頗る多く、卒業生と社會との關係の年々問題となり來るを見る、……急々躁を卒へて望む所の職を求めんとする、擯斥されたる官立の卒業生は多く採用せらるゝも、擯斥せし私立の卒業生は則ち其後へに附きて就業の途を得る能はず、……當初の目的を達するの途なきに際して更に他に移らんとするも適當の職業を得難き、爲に方向に迷ふ者少しとせず、……能く分業して學問を修むる點に於て英米は遙かに獨逸に劣り、近來稍々此に則らんとするの傾向あれど、卒業後就くべきの途なきに窮する者の少きに於て頗る稱すべきあり、謂ゆる技術を授くるに非ずして人格を陶冶するなりとは、分業の點よりして遂然に失すれど、融通の利くといふに於て頗る採るべしとす△私立學校に對して人格の陶冶を勸むるは元より不可なる無く、世論一般亦た既に然る也、然れども吾人を以て今の卒業生の就職難を見る、蓋し教育の問題に離れて別に其原因存せざる可らざる也、即ち問題は卒業生の才能如何にあらずして、社會の組織にある也、見よ、卒業生にして如何に融通の利く才能を有するとも、職業は何れの方面にも得られざるに非ずや、就業難は社會問題なり、雪嶺氏の之を教育問題とするは少しく正鵠を失せるものと言ふべき也

▲島地老師を送る（教界時事）島地默雷老師は道廻山命によりて奧羽布教總監の名の下に、愈本月中旬東都の地を離れて、陸中盛岡の白坊願教寺に退隱せらるゝことゝなれり、思ふに師が今回の轉任は榮轉にあらずして寧ろ左遷に非ざるか、數十年來教發し來りたる白蓮教會に別れを告げ、多年の經營に成れる文藝學舍を見棄て去るが如き、恐らく師の本意には非ざるべし、……老來漸く圓熟の境に達したる師が脫俗の風昧に接する之より愈々疎からんとし、東都の佛教界更に一段の寂寞を感ぜざる能はず、誰か愛惜の情なからんや△日本紳士閥的佛教界が日に非なるの時に際して此の文を讀む、豈に痛歎長息せざるを得んや

●編輯雜事

▲僕が此夏得たる一經驗によつて平民社諸兄に注意し且實行を願いたいと思ふのは直言の挿繪なり。僕或小學校教師を訪れた時、數多の兒童に平民新聞合本の挿圖を示し、戰爭の慘、現代世態の矛盾困難、勞働の神聖にして尊む可き事、遊食の不義にして賤しむ可き事或は平和、博愛を說きしに、彼等の最も感動するは平和博愛の圖よりも寧ろ戰爭の慘、勞働の神聖、遊食の不義等の圖なりき。これ其思想頗る單純にして抽象的の者は容り難く、之に反し具體的の者は大に感動し易ければ也、かの紳士閥酒宴の板を勞働者の搾き上ぐる圖の如き、紳士閥の飽衣暖食しつゝ積雪中に闘爭せる兵士を一筋の組にて操縱せる圖の如き、平民の血はこれ紳士閥の飲料なる圖の如き如何に有力なりしぞ。僕思に社會主義の思想に就ては兒童も一般人も同じく無意識なり不知者なり、抽象的のものよりも具體的皮肉的のものを喜び而して感銘すること多き也。平和の風景も可なりと雖、寧ろ多く意を此所に致されんことを、諸兄の說如何。（春香）

▲予は竊かにいぶかる、教科書の國定てふを利用して已れの利益獨占を計り、まんまと世を瞞着しつゝある大橋新太郞等が第二の教科書事件につき、直言が口をつぐみつゝあるを、今又日本書籍會社の利益配當表を僅かの廣告料の爲に掲載し居るを見る、直言の沈默を守る所以も讀めた（野の一人）△こんな馬鹿を云ふ人があるから困る（直言記者）

▲正誤　前號『川柳會心』の項中『川柳發選』は『川柳類選』の誤、又第廿三句目『眞女樣をと』は『眞女樣だを』の誤、其他校正の誤多けれど一々正誤せず

●川柳會心に就て

◎堺君の川柳好にも驚入候、先達ても家庭雜誌にて『我が好む川柳』を拜見致し、今又『直言』にて『川柳會心』を拜見致し候、中には感心せぬのも有之、又餘り輕いの、例へば『鋏の落ちる音』『叱られた禿』の如きは俗受いかゞと存じ候へども、大體より申せば道が御選み精の又精と存候

◎『よく見れば手の屆くだけ澁い柿』と申すのは、作者は只だそれだけの面白味を取つたものと存じ候へども小生は何だか色々な意味に解釋して見たく相成候、即ち學校の新卒業生などが職業を求むる時にも必ず此の感之れあるべく、又結婚を求むる男女の心中にも必ず此の面白からざる經驗ある事と存じられ候、斯樣に考へ候へば此の句に又一段の味ひあるやう覺えられ候

◎『首くゝり富の札など持つて居る』と申すのは、實に感慨無限に御座候、首をくゝるほど不運の男が、猶ほ富籤の好運を望んで居たかと思へば、眞に涙こぼるゝばかりに候、一方より見れば、此の句實に世の僥倖をアテにする人物を痛罵したるものに有之候、いづれにせよ味氣なき今の世の縮寫圖と存じ候、政府は勸業債券國庫債券等に富籤を奬勵し、學者文人は成功論を以て少年の僥倖心を挑發しつゝある今の社會は、實に此句の前に顏色なき次第と存じ候

◎『御隱居に人身御供の美しさ』と申すのも、實に痛切に存じ候、是も今の世によくある奴に候、總て斯樣の句共は人心を刺激し一世を警醒するに於て、甚だ有益のものと存じ候、今後も折にふれ川柳文學の鼓吹願はしく候、匆々頓首（一老生）

平民文庫出版廣告（郵稅不要）

- ●社會主義入門　平民社同人編　定價十錢
- ●消費組合の話　石川旭山著　定價十二錢
- ●地上の理想國 瑞西　安部磯雄著　定價十五錢
- ●社會民主黨建設者 ラサール　幸德秋水著　定價十五錢
- ●土地國有論　西川光次郎著　定價十錢
- ●富の壓制　西川光次郎著　定價十錢
- ●經濟進化論　田添鐵二著　定價十五錢
- ●小說 火の柱　木下尙江著　定價廿五錢
- ●小說 良人の自白（上篇）　木下尙江著　定價廿五錢
- ●小說 良人の自白（中篇）　木下尙江著　定價廿五錢
- ●革命婦人　平民社同人編　定價十二錢

五錢本之部　一部價五錢郵稅二錢　但二部以上郵稅不要

- ●百年後の新社會　堺 枯川抄譯
- ●理想鄉　堺 枯川抄譯
- ●ジョン・バーンス　西川光次郎著

書籍取次販賣（郵稅無料）

- ●社會問題解釋法（安部磯雄著）　價一圓廿錢
- ●廿世紀之怪物 帝國主義（幸德秋水著）　價廿五錢
- ●社會主義神髓（幸德秋水著）　品切中
- ●小說 勞働問題（堺利彥譯）　價廿五錢
- ●社會主義概評（島田三郎著）　價三十錢
- ●社會黨（西川光次郎著）　價十五錢
- ●產業組合手引（森近運平編）　價二十錢
- ●青年と生存競爭（[illegible]著）　價二十錢
- ●家庭の新風味（堺利彥著）　價壹圓
- ●家庭夜話（同上）　價壹圓
- ●枯川隨筆（同上）　價二十錢
- ●我家の犬猫（同上）　價八錢
- ●トルストイ翁 日露戰爭論（平民社譯）　價八錢
- ●小品手帳 智識と趣味（斯波貞吉編）　價三十五錢

注文所　東京市麴町區有樂町三丁目　平民社
注文所　大阪市中の島宗是町田蓑橋南詰　大阪平民社

●嗚呼鈴木秀男君

荒畑生

嗚呼鈴木秀男君、彼れは遂に殺されたり、彼れが死せしは露國軍隊の彈丸の爲に非ず、露國軍隊の銃劍の爲に非ざりき、彼れは實に今日の社會制度や、横暴なる紳士閥や、惡虐なる政府を憎みつゝありし若きソシアリストなりき、然も今や其の常に憎み厭ひつゝありし政府や紳士閥の犧牲となりて滿洲の野に死せるなり、而して彼れは齡既に六十に餘る老母一人を殘せり

今年二月彼れの北海道に兵として赴かむとするや、横濱なる吾が懇話會は君を横濱ステーションに送つて、愚なる市民が君が代の樂を奏しつゝある時、吾等は高く叫べりき「社會民主黨萬歳」と、列車の將に發せむとするや、彼れは曰く「嗚々余は遂に行かざるべからず」と、時に何人か悲憤の聲に高く叫びぬ「犧牲となりし社會主義者の血を流せ」と、嗚々今ま彼れは遂に其の血を流せし也、彼れの母堂はつれに彼れに語りしとか『吾が望みは富に非ず、位に非ず、只だ汝と共に小く共、貧しく共、一家庭を造らん事のみ』と、何等悲惨なる願ひぞや、然も今や彼れは遂に永劫歸らざるの人となりおれるなり

嗚呼我が鈴木秀男君は殺されたり、吾横濱懇話會の前身平民結社は彼にと余と共に創設せしもの、然も彼れや「僕の分も働いてくれ頼むよ」の一言を殘して再び歸らざるの客となり了れり、然れ共余は君が戰死の報に依りて社會主義の信念を一層強くせられし事を感謝す、今の政府、今の社會に對する憎惡の念の一層甚だしくせられし事を感謝す、嗚々彼れが肉體は亡びんも彼れの精神は滅すべからず、余は今後彼れと余との二人分を働かん、見よ彼れの敵は吾等の常に戰ひつゝある紳士閥や政府に非ずや、余は彼れの讐を報ずるの必ずしも遠きに非ざるべきを思ひて獨り自ら慰むる耳、

嗚々今や余は靜かに逝き、今また此親友逝く、午夜獨り靜かに之れを思へば、涙滔々として殆ど禁ずる能はざる也、彼のポンポコ平唄はずや『大臣大將の胸に光るは何ですえ、金鵄勳章?イエ／＼違ひます、可愛い兵士の髑髏!!』と、嗚々余もまた彼のポンポコ平と共に此の歌を高く高く叫ばん也、

(下の段に掲ぐるは鈴木氏の肖像なり)

●同志松岡成雄氏逝く

高知縣の同志松岡成雄氏は、去る二十二日、病を以て逝去せらる、高知社會主義同志よりの報知に曰く、

同志松岡成雄氏は久しく肺患に罹れりしが、藥石効無く、去る二十二日を以て遂に白玉樓中の人となれり、氏は當地平民倶樂部の幹事として、よく其の職責を全うせられ、壽餘奔走、曾て病の軀にあるを知らざるものゝ如く、當地の倶導界爲めに活氣を呈する事一層なりしに、今や則ち遠然として逝いて歸へらず、温乎たる其の容、靄乎たる其の意氣、人をして浪慨哀惜に堪えざらしむ、然れども氏の遺圖は永く沒せず、氏が播きし種は漸く大に萌え出でんとす、氏亦以て冥すべき也、氏年三十又三、その逝くの日天極めて晴朗、その柩を葬むるの日、天俄た暗晦、知らず、昊天如何の情ぞ、噫。

吾黨の前途將々多事ならんとするの時に際して此報に接す、吾人豈に哀傷の情に堪えんや。

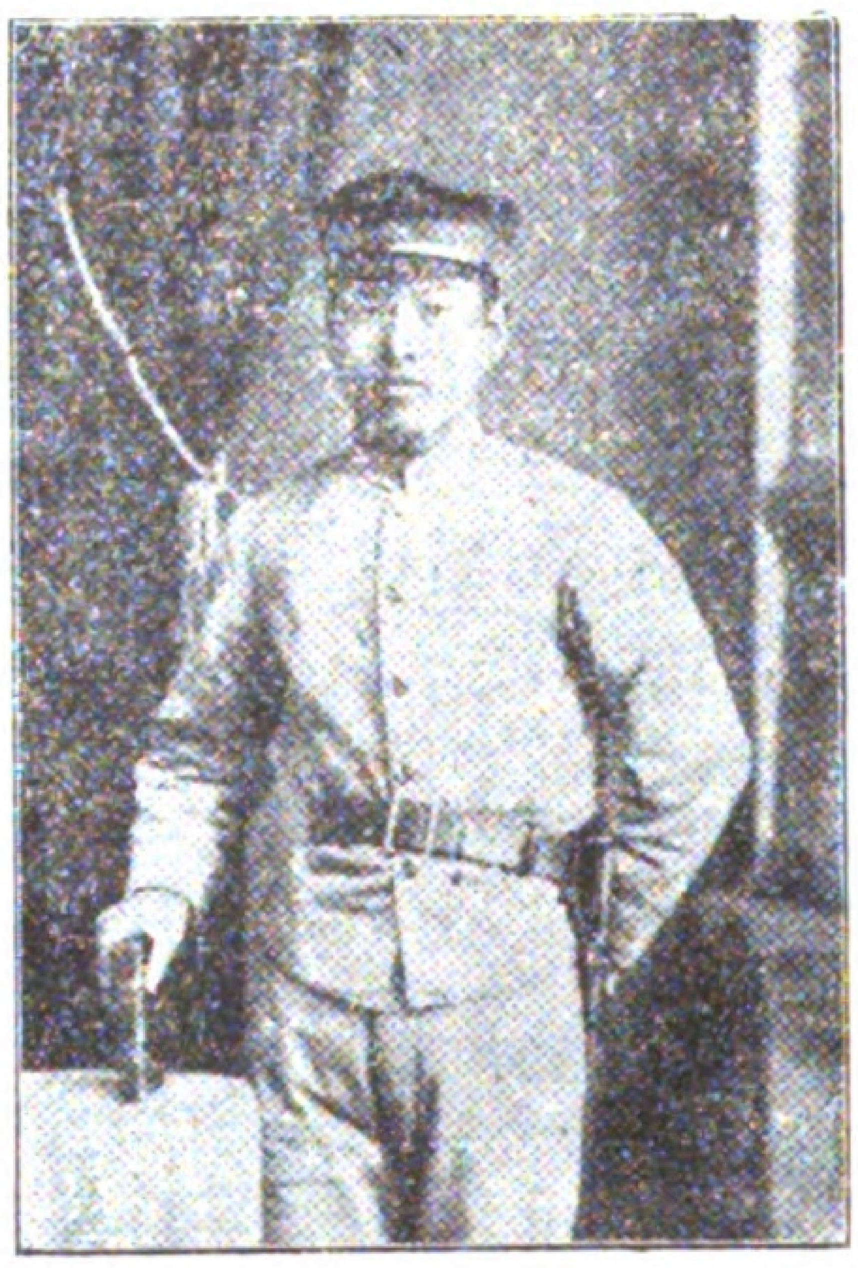
同志の運動

△歸省途上の傳道

阿南卓

△一帶に思想界の福音に縁の疎い本縣中殊に生計安逸に人間が呑氣な上に進歩的の男らしい氣象が皆無と言ふてもよい頑固な佐伯であるから、自分から進んで讀書しやうとか研究しやうとか云ふ人物が極めて少ない。山羊の如き大であるから主義の傳道にも困難である、青年は時代の潮流に浴すことを知らず「君の様なことを云ふたつて實行が出來ないではないか」嗚現實主義の権化殆ど愛想も盡も盡き果てる、然し微力ながら此の旬日に幾分が我が主義の思想を頑迷卑屈な佐伯人の一部に注入したことは、せめてもの喜ひと云はねばならぬ、

△さて余は、歸省の途に登るべく新橋で汽車に乘込んだ、乘客滿員立錐の地なきを幸ひ、平民新聞、直言、及び檄を盛んに配附した、立つて居る人のあるにも係らず、腰やがつて五人分の席を横領して居る洋服姿の金縁眼鏡(鍍金擬かも知れぬ)八字髯の所謂ハイカラに迄も配ると「又社會主義か」と云つて見下に捨てた大面の奴があつた、癪に障つたが檄一枚でも熱誠な同志を得ることもあらんと拾ひ揚げて外の人に見せた、興津で夜が明け名古屋に着いたのは十一時であつた、熱田には近頃砲兵工廠が出來たと云ふので、窓から首を出して見ると或る程血で塗た様な煉瓦の建物が雲際に聳へて居る、名古屋の停車場の乘客休憩所で貴公の目を盗んで一仕事行つた、友人の盡力を得て、火の柱、入門、新社會、理想鄕を一部づゝ賣つた、名古屋大阪間の車内で、平民、直言、平民新聞を配つた、數名の職工と工夫が乘つて居た、檄が媒介者となつて親しく物語た、仲間の中に往々裏切る者があつて度々賃金引上げの相談が工場主に漏れて頭株が解雇になると云ふて居た、未だストライキと云ふ結餞の武器を待つて居ぬらしい、四五人の捕虜兵が京都で下車した時に一人の乘客が隣席の者に「ナゼ彼奴等を生かして置くのでせう」といふた如斯き頑迷の奴があるから我國が幾年經ても野蠻の境界を脱せないのだ、大阪の旅館で入門、新社會、革命婦人各一部賣た、今治で軍人が澤山乘込んだから盛に檄と新聞を配布した、其内二人の女學生は、こんな新聞は見たことがないと云ふて熱心に讀んで居たから革命婦人を一部贈た、此の二人の女學生將來社會主義者になるや否や、船は伊豫灘を横つて別府に着いた、一人の男が乘たから檄を與へたそれから漸々話が始まつて終に革命婦人一部賣た、彼は近々宇和島で「新豫州」と云ふ新聞を發行するとのことであつたから「直言」の廣告を出す約束をした、新聞事業には大層經驗ある人のように見受けた、汽船の都合で臼杵に上陸し醫師、書友を訪れた、佐伯に歸つたのは二十八日、之れまで賣つた書物は合計十五部である、今後城山の頂にソシアリズムの鐘を撞き佐伯人の覺醒を計るは予等の務めである、以下次號。



▲札幌平民倶樂部

△日時　八月廿日(第三日曜日)午後七時

△場所　北一、西三、三、堀川勇吉方

△會費　金参錢、何人と雖ども出席隨意

▲函館平民倶樂部(第三次小集)

八月四日、相生町篠崎氏方に開けり、出席者僅かに三名、次回は八月十八日午後六時、同所に集會の答、同志の出席を望む、會費五錢

●故堺みち子氏追悼會

來十八日は故堺みち子氏逝去の第一周年に當ります。吾等はかの優しく氣高かりし友を決して忘るゝ事は出來ません。噫、身は久しく大患に襲はれながら、人道の戰場に立てる眞人の君なれば靜かに慰め給ひし彼女、吾等は眞に追慕の念に堪えぬのであります。若くは同情の諸兄姉よ、何卒左の事項御認めの上、相集まりて與に追悼の意を表して下さい。

△會場　芝浦、大光館

△日時　來十八日午前十時より

△會費　金五拾錢、當日御持參の事

御出席の方は十六日迄に平民社内福田英宛にて其旨御報知を願ひます

發起人　逸見菊枝　福田英　延岡ため　幸徳千代　熊谷かつ　木下操

●新刊紹介

▲近藤重藏、間宮林藏(長田偶得著)『偉人史叢の一部として發刊せる二子の傳を合册とし、樺太占領紀念の爲め、特に再刊する』に至りしなりといふ、序に曰く『王師の樺太島を占領するや、直ちに其ノトロ岬を近藤岬、シレトコ岬を間宮岬と改め、又韃靼海峡を間宮海峡と稱するに至りしは近藤、間宮二子の姓名を紀念とする意に出づ……文字の豪宕、其事の雄壯と相副ふて一讀神飛び骨躍るの慨あらん』と、子供らしくて愛嬌あり、吾人は彼の『桃太郎』や『大江山の酒呑童子』等の物語を聞く如き感あり、若しも擧國一致で、米艦の空になるのも知らずに『桃から產れた桃太郎』などと浮かれ騒ぐ國民有らば、其れこそ眞にお目出からずや(價二十五錢、日本橋通二丁目裳華房)

△獨立評論(七)	豐多摩郡澁谷村其社
△學燈(九の七)	日本橋區通三丁目丸善
△唱歌集(工業の花增刊)	大阪瓦町職工教育會
△日曜講壇(一八七)	麻布仲の町聖教社
△向上主義(十)	本郷丸山福山町久友社
△新開胞(三)	北海道夕張勞働至誠會
△誠友(五九)	府下南品川五丁目誠友會
△國民評論(六)	神田三崎町三の一其社
△揚雲雀(二九)	小石川中富坂自由傳道社
△ときのこゑ(二三一)	芝口二丁目救世軍日本々營
△渡米雜誌(九の八)	神田三崎町三の一渡米協會
△六合雜誌(二九六)	芝三田四國町ゆにてりあん
△女鑑(十五の八)	京橋築地二の二十一國光社
△活動之日本(二の八)	京橋區尾張町一の一隆文館
△日本人(四一六)	神田雉子町政教社
△教界時事(六一)	麴町上二番町其社
△家庭(五の八)	巣鴨二二五五其社
△綠雨(二)	本所龍岡町綠雨社
△基督教世界(一一四四)	大阪北區中之島其社
△音樂月刊(七)	大阪通博勞町石原樂器店
△曙光(七)	本郷四竹町其社
△工業の花(廿二)	大阪東區瓦町日本職工教育會
△新曙光(十の八)	北豐島郡日暮里村北友雜誌社
△新人(六の八)	府下巣鴨村新人社
△曳馬の友(二六)	靜岡縣濱松町實業徒弟共勵會
△警醒聲(十の八)	府下巣鴨村庚申塚其社
△二十世紀婦人(二の八)	麴町區飯田町北海道婦人會
△成功(七の二)	本郷弓町成功雜誌社
△新公論(廿の八)	本郷四丁目新公論社
△新佛教(六の八)	駒込片町新佛教徒同志會
△むらさき(五の三)	麴町區飯田町六丁目古今文學會

●チラシの色々

左の四種のチラシ御入用の方は表題を指定して御注文あれ、御送金は郵便切手にて宜し、實費一枚約一厘と郵税とを見積り、相當の枚數を計算して直ちに發送いたします

△社會主義の檄　△社會主義とはドイナ者

△社會主義と女子　△社會主義の歌(諸人)

▲外に頒布用として直言の舊號を多數に要せらるゝ諸君には無代價にて進呈す、郵送用の切手を封入して御申込あれ

堺利彦著

半生の墓

(來る十八日發賣)

(定價金三十五錢、郵税を要せず)

著者卷頭に題して曰く▲明治卅八年八月十八日、亡妻美知子一週年の紀念として此の書を發行す▲此の書は予の半生の墓にして又美知子の墓也▲予は石の墓を作らずして、玆に此の紙の墓を作る

●本書目次

●予の半生●哀史梗概●不知所往列傳●永久の滿月●僕にもオバアさんが欲しい●小供の導き●細君の説法●獄中生活●風流乞食●一人の要する土地幾許(トルストイ)●別莊拜見の記●其他數篇

發行所　東京市根津宮永町卅六　平民書房

取次所　東京市麴町區有樂町三ノ一　平民社

●木下尚江君小説

小說 良人の自白

上篇第四版も亦賣盡し今回更に第五版發行せり

中篇三版迄殆ど賣切れ今回更に第四版印刷中也

(定價、各冊三十五錢、郵税不要)

小說 火の柱

第九版新に發行したり▲價同

發行所　東京市麴町區有樂町三丁目　平民社

名士肖像　平民社繪端書

マルクス(近世社會主義の祖)

エンゲルス(近世社會主義の祖)

ラサール(獨逸社會民主黨建設者)

ベーベル(獨逸社會民主黨首領)

トルストイ(露國非戰主義の老傑)

クロポトキン(無政府黨首領)

一組六枚定價十錢

郵税五組まで二錢

名士肖像　平民社繪端書

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●紀州だより

▲紀の川と云へば直ぐ清澗たる香魚を聯想するが數年前麻生津村に二ヶ所の鑛山が出來てからは絶へず流下する鑛毒の故を以て同村より下流ずつと和歌山市に達する迄一尾の香魚すら居なくなつた、爲めに沿岸幾多の漁夫は旣に生命維持費を他の方面より獲やうとすれど、今の社會はすィ夫れと失業者を養ふに都合よき組織を持たぬ、是れ近年に於ける我鄕の大暵聲の一(紀州男)▲社會主義とキリスト教とは何を以て衝突すと云ひ得るか、キリスト教は素より社會主義であらねばならぬ、社會主義者又ナザレのエスが崇高無比の人格に化せられねばならぬ(馬太傳第二章十四節以下參照)、予は社會主義を容れざるが如き似而非キリスト教を信ずる能はず、吾人の大訣辭となすと同時に、キリスト教を汚瀆し、不敬虔なる社會主義者を取らぬ、人類の最大理想にキリスト教を信じ社會主義を奉ずる事に依て實現せらるるのだ、現時我國キリスト教徒中、赤心より社會主義を排し得る者夫れ幾人ぞ、盛等の赤心に深く此主義の眞理を悟るも、怯懦無勇なる盛等は悪俗の手前がへ氣搆へて此主義を暴と呼び狂と罵る鳴!(紛川寺生)▲予は淺學不識の田舍傳道者であるが、福音宣傳の序に必らず此主義の傳道をも併せ行ふてゐる、驚いたのは、現に知れる者の多い事で、先づ小學校教員、警察官、僧侶等を始め、尋常學校を卒業しない靑壯年の中にも、既に社會主義を奉じてゐる者が驚くある、我等は實に我等を以て不識の靈、徒として居つたのであるが、今親しく眞個に民衆の思慮を了知するを待て、今更の如く偉大なる神の心、眞理の力を驚歎するのである▲天照大神こそは天地萬物の創造者たる獨一絶對のエホバ也と信じ、軍國主義こそは我日本國民の限なく奉ずべき絶好のもの也とし、曝誤は平民に比べて無上、撃破すべき者なりとし、贊者はさ察に比べて無下に卑しき者なりとし、社會主義など唱へる奴に不制漢か狂人かであらうなど、思ひ、田中正造や木下尙江さんの如き人物は讀も原田孫吉や白上源次郎の程度ぎにも及ばぬ者と固く〳〵思ひ詰めて居た自分は、愛に一朝關係悲慘の軍隊に豚の如く牛や馬の如き生活をやつて以來、十年の迷夢飜然として覺醒せられ今では立派に社會主義の眞理に浴し、創世紀を信じ、ナザレの大工の子を眞のメシヤと信奉するやうになりました、ハレルヤ(紀州監獄生)▲モシ試みに日兵の質より吾等が生命と頼む酒と煙草と春畫とを奪去れ、果して吾等の戰鬪力は幾何の程度に沈滅少すべき乎を知らずや予が友砲兵中尉は常に帝國主義を罵殺し似而非忠君愛國說を惡弊す、一日予に書を寄せて曰く一僕の尤も嫌いなものは一、軍人也、二、高利貸也、三、貴族也、四、藝妓也、五、頑迷なる教育家也、六、所謂慈善家也、七、所謂道德家也、別に又曰く、軍人仲間にも社會主義の吹くこと頼也と、ア、迷へる愚俗よ、眠れる國民よ、看よこの大勢を、醒めよこの夢魔に(兒玉生)

●豫告●

佛國ワグナー氏著 在米中村嘉壽君譯

單純生活

今秋出版

繁劇なる社會にありて單純剛健なる生活を送り得べき眞味を說きたる世界有名の書なり原著者の承諾を得たる譯既に成れり發刊の日請ふ受讀を賜へよ

葛卷星淵君著

◉信仰餘賦 **小星**(再版) 定價十八錢 郵稅二錢

集むる所數十篇、是れ信仰上の感想を新體詩及短歌に賦したる者、每篇の首に聖書の語句を標示し其精神を示す、傳ふる所は美文麗句にあらず亦巧想妙思にもあらずして靈の兄弟姉妹に頒たんとする希望と慰籍とに也

發兌(聖書販賣) 東京市神田區猿樂町廿五番地 中庸堂書店

●齒科治療 自午前八時至午後六時●

神田區須田町二十六番地 齒科醫 吉瀨才一郎

勞働者諸君に限り藥價診察料共に御隨意 時間外執業者の便利上夜間十時迄治療仕候

主筆 赤司繁太郎

ユニヴァサリスト

●發行所 名古屋市東片端武 世光社

每月壹回發行 半年分貳拾錢 一年分四拾錢

宗教科學調和の福音 逆歩的基督教の機關、批評的聖書研究の好資料(本誌の特色)

筋拾錢(八月分)要目 △實驗的宗教(赤司繁太郎)△主觀論(痛快なる主觀の批評)△萬國平和の大勢(文學士ゲート)△西班牙の古教△翻林の罪可須△マナゼの新(郵外書の翻譯)△猶太人の宗教觀△自由私育論(黑軒生)其他材料豐富趣味津々

中山鬼骨著 枯春畫

吾人の運命

發行所 麹町區飯田町六ノ廿六 古今文學會

運命!吾人の生涯は果して運命の手に支配され終るものなるか、世の榮枯盛衰常なりとは云へ吾人は起て運命と戰はざるべからず、著者嶄新の論述べて餘すなし實に之れ處世の秘訣なり、讀過自から吾人を起たしむ

定價金六十五錢 郵稅金六錢

發賣元 下谷區西黑門町四 盛光堂

●夏期の讀物に適す●

大和田建樹先生著 美文和歌 **夕月夜** 正價郵稅共金三十八錢

待宵舍一門の歌文集なりいづれ劣らぬ花葉木蔭のハンモックに搖らるゝ時何よりの友ならん

婦女新聞編輯局編 **天眞爛漫** 正價郵稅共金十五錢

無邪氣なる小兒の言語動作を集めたるもの夕食後の團欒に面白をかしく一同を笑はしむるは是れ

發行所 東京牛込小石軒町 婦女新聞社

●每月二回(五日、二十日)發行●

兒童教育

兒童教育は價が安くて美しくて、面白くて、ためになる子供の讀物です、▲一部三錢●十二部(半年分)三十五錢●廿四部(一年分)七拾錢●郵稅各五厘

發行所 東京神田末廣町十 兒童新聞社

●(官許)胃病良藥 **慈善散** 一日分三ぷくにて一袋金二錢

遠方の人には十日分まで郵稅二錢で送る、代も郵便切手で宜し

東京市淺草上平右衞門町十四番地 靜岡より轉居 富田慈善堂

辯護士 今村力三郎 東京市神田區今川小路二丁目十四番地 電話本局一九四〇番

文學雜誌●火鞭會機關

火鞭

每月一回發行●一部金八錢

第壹號九月十日發行

▲火鞭は火鞭會の機關雜誌なり。

△火鞭會とは何ぞ?

▲火鞭會は科學萬能主義に抗して、人類の妄迷を打破し、現代文明を批評して、默移暗遷する時代の黑潮に掉さんと欲する者の團體也

▲火鞭會は藝術の爲めに藝術をなさす、形式と技巧とに束縛せられたる軟弱なる文學を排し、藝術の根底に横はる人生及び人道の光に觸れんとする者の團體なり。

▲火鞭會は批評を以て創作の奴隷となすを彈劾し、炎々たる新生命を吹鼓せんとする者の團體なり。

▲火鞭は以上の抱負をする者が其の生ける詞藻評論を縱横に發表せんとする舞臺なり。

▲火鞭會は同志の入會を希望し火鞭は同志の投稿を歡迎す。

本會規則を要するものは往復ハガキを以て發行所內(火鞭會)へ申こむべし

取次所 東京市麹町區有樂町三丁目 平民社

發行所 東京市麹町區富士見町六丁目 研成會

宗演禪師評 海老名彈正師評 空水著

禪海の一波

▲定價拾錢◎郵稅不要▲

『著者曰く「本書は、禪宗の見識をもつて基督教の眞髓を摘出したるものなり」』「海老名彈正先生曰く「是は、精神的耶佛對照近頃の珍本、道味も中々深い。」

發行所 東京本郷四丁目五 文明堂

活版印刷

東京銀座地 株式會社 **國光社**

電話新橋二九六三番 特電話新橋八八番

麻病を根治せしむる神劑 **快淋丸**

本劑は一等軍醫正草刈先生の處方に據り藥劑師田所繁松製せし者にて輕きは一週間如何なる難症にても一ヶ月にて根治せしむる特効保證の神劑なり

藥價 三日分十五錢 七日分三十錢 ●十五日分六十錢 ●一月分一圓

東京市中は即刻配達す●全國無料送達す

發賣 神田區皆川町一番地 一志堂藥局 電話本局三千四十番

外科皮膚病梅毒科的婦人科尿道器械的療法

東京 **加藤病院** 新橋際出雲橋

診察午前八時より十一時まで

院長 獨國醫學士 加藤時次郎

分院 横濱神奈川臺火木土自午後三時至六時 小田原海岸每日曜午前中

▲本紙定價 一部三錢五厘、廿部前金六十五錢 五十部前金一圓六十錢、郵稅不要

▲廣告料 一行十九字詰三十錢

▲注文 は總べて前金に限る

▲郵券代用 (にて前送金の場合は必ず一割増とし成るべく五厘の切手を用ひられたし)

發行兼編輯人 原眞一郎

印刷人 山田金市郎

發行所 東京府荏原郡入新井村字新井宿二五五七番地 直行社

發賣所 東京市麹町區有樂町三丁目 平民社 電話(本)三二九二

印刷所 京橋區銀座三丁目 株式會社國光社 電話新橋二六九三 八八

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY